



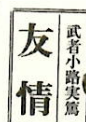
よかったら、読んでみてね



『砂に書いた名前』 ～ホラーの迷宮～ 赤川次郎作 (汐文社)

大学生の大木はある日、同級生の朋子の父親が所有している別荘に招待された。別荘につくと、朋子の父親は、大木を快くむかえてくれました。

ところが滞在しているうちに、その父親の不可解な行動に疑問を抱いていきます。



『友情』 武者小路実篤著 (新潮社)

脚本家である野島は、大宮を尊敬し、心を許す親友でもあった。

ある日、野島は友人の妹である木下子子好きになったことを、大宮に相談するのだが、大宮も野島から話を聞いた時に木下子子にひかれてしまったのだ。

友情と恋愛、どちらも大切な存在だからこそ、人は悩むのである。



『少年少女のための ミステリー超入門』 芦辺 拓著 (岩崎書店)

著者の芦辺さんは十代の頃から、ミステリーを読みたい気持ちはあったものの、数が多すぎて、何を読んでいいのか見当がつかなかったそうです。

しかし、そこに足を踏み入れるとき、まわりの人たちのアドバイスがあり、ミステリーの話にのめりこんでいったそうです。

この本には、ミステリーの長い歴史に沿った8冊の本が紹介されています。



『素直な心になれたら ～松下幸之助が中学生に 教えたかったこと～』 PHP研究所 著 (PHP研究所)

松下幸之助は松下電器(現パナソニック)をついた一代で築き上げました。

幸之助は小さい頃、実家が破産したため、9歳で親元を離れ、働くため大阪へ行ったそうです。

生まれつき、身体が弱かったのですが、人が弱くなるためには、仕事で成功するためには、とことん考えぬき、成功を成しとげたのでした。